



# 天然湖なのにダム？ 決戦舞台の絶景湖水を歩く

太古から悠久の水をたたえてきた天然湖。その水をダムのように人間のコントロールの下で活用できないかと先人たちは考え奮闘してきました。農地が大幅に増えた江戸時代以降、天然湖から水を人里へ引き込む方法が各地で模索され、猪苗代湖、芦ノ湖、河口湖といった日本を代表する湖でも、湖岸の山を人力で突貫する荒技で水路トンネルが造られました。さらに近代以降は日本最大の琵琶湖、二位の霞ヶ浦、日本一深い田沢湖も長大なトンネル水路により「ダム化」されています。天下分け目の「賤ヶ岳の戦い」の舞台となった余呉湖もまた、天然湖でありながらトンネル水路を持ち、「余呉湖ダム」という名でダムカードも発行。余呉川が増水した緊急時には水を受け入れて洪水を抑制したり、逆に農業用水が必要な時は賤ヶ岳を隔てた琵琶湖から水をチャージしたりと実に働きの者。絶景と伝説にトンネル目線を加えて、ひと味違う池さんぽはいかがが。

## 天然湖ダム アラカルト



**支笏湖**  
北の大地の巨大天然湖を水力発電用のダムにしてしまうという壮大な試みは、なんと一企業がやっけてのけている。  
●北海道千歳市



**猪苗代湖**  
猪苗代湖をダム化しているのが十六橋水門。ここから会津への水路は、トンネルも含め完成まで200年もの歳月を要した。  
●福島県会津若松市



**赤城山の太沼**  
赤城山の山頂にある天然湖・太沼の水を引くために、外輪山をくぐり抜ける2.2kmのトンネルが掘られた。現在も現役。  
●群馬県前橋市

文・イラスト・写真  
市原千尋



**Profile**  
全国2,500基のダムをはじめ、訪れた池は全国1万以上。地域とどりの池の役割、歴史や魅力をブログで毎日発信。著書に「日本全国 池さんぽ」(三オックス)。



【運営ブログ】水辺漫路  
<https://bunbun.hatenablog.com>